

法務省成人式分科会第 2 回 ヒアリングに関する事前調査
発言の骨子

平成 30 年 11 月 26 日
日本きもの連盟会長 奥山功

成人式に関してどのような関わりがあるか

私共は わが国式典の和装の礼服を製造し提供する伝統産業として、長年にわたり国民の衣生活に深く関わってまいりました。

同じく 戦後に始まる全国各地での成人式の祝典におきましても、式典に出席される若者の要望に応え、男子の紋付き袴と女子の未婚の礼装衣装を提供してまいりましたが、近年 わが国の国際化を背景に、若者たちの伝統文化への関心が高まり、全国各都市のどの式典におきましても とくに女子においては出席者の 9 割以上が振り袖に身を包み出席されていることが全国会員からの報告や新聞報道で知ることとなっております。

本会全国会員は 成人式に出席される若者やご家族と長期にわたり当日身に纏う和服の準備を重ね、成人式当日には着付けを行い、会場へ送り出すなどのお手伝いを行っておりますが、本会会員は毎年数十万の成人式に臨む若者の晴れやかな姿に接し、国民一人一人の人生における成人式の意義を実感するとともに、わが国の伝統文化の歴史的意義をあらたにするところです。

式典が終わり、同窓の仲間たちとの懇親の後、振り袖や羽織袴をしまいにお越しの出席者のお話を伺いますと、式典は厳かなうちにも華やかな雰囲気にも包まれ、日本人として和服を着装して出席して本当に良かった、とのお話を毎年多数いただいております。

私共が担う業務の重要性と責任をあらたにするところです。

成人式を行うことの意義についてどのように考えるか。

成人式はご周知のごとく奈良時代の宮中における元服式が基本となっているものですが、現在の成人式は 七十年前の敗戦の混乱期に学徒出陣で戦地から帰って来、将来への不安を抱える若者達を励ます場として埼玉県蕨村の青年団により催された激励の会がルーツと言われております。

現代社会においても 成人式のこの理念は変わらないもの、と思うところですが、その後七十年を経過する中で ご家族、地域挙げての大切な祝事として大きく発展している姿を年々実感しております。

又 国際化が進み若者達の進路に多様な選択が課せられている現代においては人生の節目となる通過儀礼としての成人式の役割は益々大きなものとなっていると考えております。

成年年齢が18歳に引き下げられた後の成人式の対象年齢や時期等についてはどうあるべきと、考えるか。

そうした趣旨から 私共は 現行の二十歳になる若者を対象とすることと、開催期日についても 現在成人の日として定められている現行の一月第二月曜がふさわしいと考えております。

その理由は 新成人年齢18才はほぼ全員が高校生であり、祝典出席の時期に無理があるとの教育制度との整合性や、飲酒やギャンブルについては適性年齢20才(はたち)と定められた、などの成年としての環境がほぼ整う時期が式典にふさわしいと考えるものです。また 私共が聞き取り調査した各地域の方々のアンケートにおきましても、成人式は二十才との慣行を変えることに多くの国民が違和感をもっていることもお伝えしたいと思います。

前二項にも述べましたように、成人式開催の意味からも 子供から大人への門出を祝う晴れの式典としての成人式は 対象となるできるだけ多くの若者が出席し、成人になる意義を全員で確認し合う場として、国、地域上げて継承し発展させていただきたいと願うものです。